



※ “つるみん” 平成26年度第38回鶴嶺祭『ゆるキャラグランプリ』でグランプリを受賞。1年2組小山田夏芽さん、鬼塚麻未さんの作品で、その思い（願い）は、3つ。・「世界中を飛んで、鶴嶺の名を広めている鶴」・「好きなものは笑顔と思いやり」・「鶴高生と協力して、世界中を笑顔にするのが夢」です。

新緑の季節5月です。新入生の皆さんは高校生活に慣れてきた頃ですね。次は体育祭ですよ！

体育祭でパネルの参考になるかもしれない絵本もありますから、図書館で相談して図案を作成してみてください。それと、図書館内では、引き続き家庭科作品展を開催していますので、ぜひ、見にきてください。新書もありますので、立ち寄ってくださいね。

図書館司書



◆『不思議の国のアリス』大作です。 ◆一年生に紹介したおもしろい本です。

今月のおすすめ本 (司書 ver.) 『マンガ 日本の歴史』石ノ森章太郎 [著] 中央公論新社 [社]

歴史マンガをご紹介します。鶴嶺の図書館にはマンガは有りませんが、歴史物のマンガはあります。他にもありますので、一度見に来て下さい。『J I N』、『天上の弦』『アドルフに告ぐ』『まめねこ』こんなものもあります。

高校時代読んだ本

4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3

「高校時代に読んだ本」

私の高校時代は、部活動と授業の日々を過ごしていた。部活動と勉強の両立が大切であると言われるが部活動を終えて帰宅すると眠くなり、自宅での学習時間がゼロ時間の日はたくさんあった。そんな高校生活の中で出会ったのが「ドラゴン桜」であった。

このマンガは元暴走族の駆け出し弁護士が、経営破綻状態となった落ちこぼれ高校、私立龍山高等学校の運営問題を請け負うこととなり、五年後に東大合格者百人を出す計画を考案する。かつて受験指導に大きな実績を上げた個性溢れる教師を集めながら、開設した特別進学クラスに人生を諦めかけていた二名の生徒を迎え入れ、彼らに様々な受験テクニックや勉強法を教えていく話である。話の中では、様々な受験テクニックや勉強法の紹介のほか、一話ごとに受験に臨む心がけなども紹介されている。また受験だけでなく日々の生活での物事の見方や考え方などにも触れている。高校一年生の初めての間試験での順位が半分以下だった私は、このマンガに出会って勉強に対する意識や考え方が変わり、高校三年生の受験勉強中には全二十一巻を何度も読み直すほど私の心に響くものがあった。

このマンガの中で、「数学とは…ゲーム…遊びだ!」というセリフがある。この言葉は今教師として授業をしているときに大切にしていることの一つでもある。他にも様々なセリフや内容に刺激され、現在の私の授業スタイルは「ドラゴン桜」に影響されたといっても過言ではないと改めて感じた。

このマンガは生徒の皆さんにとって読みやすく新しい知識を得共感できる部分がたくさんあると思うのでぜひとも読んでほしい。二〇〇五年にドラマ化もされているのでそちらの方も鑑賞してみてください。

三田紀房【著】『ドラゴン桜』 講談社【出版社】 数学科 T.K.